

2026年7月2日

報道関係者各位

三井不動産株式会社

—LAYERED INTO BLACK—革新は、異色から生まれる。—

世界的ラグビートーム『マオリ・オールブラックス』柏の葉スマートシティに来街
柏の葉の住民やアカデミアと交流プログラムを開催

ラグビー少年少女による“ハカ”の披露や柏の葉高等学校で生徒たちと異文化交流を体験

三井不動産株式会社（所在地：東京都中央区、代表取締役社長：植田俊、以下「三井不動産」）は、6月28日（日）・29日（月）の2日間、JAPAN XV との対戦のため来日したマオリ・オールブラックスの選手6名（ジェイジェイ・ポーカイ選手、ラクラン・マックワンネル選手、トリアン・バーンズ選手、テカマカ・ハウデン選手、ニコラ・ブロートン選手、レオン・ポール選手）を迎え、「LAYERED INTO BLACK—革新は、異色から生まれる。—」をテーマに、柏の葉スマートシティにて地域交流プログラムを実施いたしました。

柏の葉スマートシティが目指す街づくりの原動力は「共創」です。これは、仲間との信頼、チームワーク、そして文化やコミュニティとのつながりを大切にする「マオリ・オールブラックス」の姿勢と深く共鳴しています。今回、世界トップレベルの選手たちと地域の人々が交わる機会を創出し、柏の葉スマートシティに新たな活気と一体感を生み出すことで、さらなる「革新（イノベーション）」が起こる街を目指し、今回の交流プログラムの開催へと至りました。



<ウェルカムセレモニーの様子>

ラグビー少年少女によるハカの披露に選手が「すごく情熱的で最高のパフォーマンスだった」とコメント

6月28日（日）柏の葉ゲートスクエアプラザにて、「JAPAN XV vs マオリ・オールブラックス」の熱戦を終えたマオリ・オールブラックスの選手6名を迎え、「ウェルカムイベント」を開催いたしました。本イベントには、柏市長の太田和美氏ならびに三井不動産株式会社 イノベーション推進本部 柏の葉街づくり推進部 部長 山本 有氏も登壇。柏の葉の住民や柏ラグビースクールの子どもたちなど、約400名が来場しました。

会場では歓迎のしるしとして、地元のラグビー少年少女たちによりニュージーランド伝統のハカが披露されました。子どもたちの元気で力強いパフォーマンスにラクラン・マックワンネル選手は「すごく情熱的で素晴らしかったです」とコメント。さらに、トリアン・バーズ選手は「今まで見た若い子たちが踊るハカの中で一番のパフォーマンスだった」と称賛しました。そして、子どもたちのハカのお返しとして、マオリ・オールブラックスの選手たちもサプライズでハカを披露。気迫溢れるパフォーマンスに子どもたちや観客も圧倒されました。その後、マオリ・オールブラックスの今後の成功と、現在闘病中のキャメロン・スアフォア選手の回復を願い、柏ラグビースクールの子どもたちから千羽鶴が手渡されました。

また、柏の葉の街づくりの原動力である「共創」というテーマにちなみ、マオリ・オールブラックスがチームメイトと成功するために最も重要だと思うことについて伺うと、「普段はいろいろなチームに散らばっているが、全員がマオリである、一つの家族であるということ意識している」と語りました。

柏市長 太田和美氏は「皆様をこの柏の地にお迎えできること、市民を代表して心から歓迎を申し上げます。柏の地はプロのラグビーチームを有しているホストタウンでありながら、全国大会に出場する高校や、ガールズラグビーでは15人制の大会を主催するなどラグビーの盛んな街です。選手の皆さまには、短い時間ではありますが、市民の皆さんとのふれあい、柏の葉を思う存分楽しんでいただきたいです」と述べました。三井不動産株式会社イノベーション推進本部 柏の葉街づくり推進部 部長 山本 有氏は「世界最高峰のラグビー文化に触れることができ大変光栄に感じています。子どもたちにとって、この出会いが、夢や挑戦へのきっかけとなること願っています。これからもスポーツが生み出す感動や交流を通じて、人と人、人と街が繋がる機会を創出してまいります」とコメントし、地域をあげて選手たちを歓迎しました。



<地域の子どもたちによる「柏ハカ」の披露>



<マオリ・オールブラックス選手による「ハカ」>



<地域の子どもたちとマオリ・オールブラックス選手の交流の様子>

マオリ・オールブラックスが東京大学 柏キャンパスを訪問、最先端の研究技術を体験

6月29日（月）、マオリ・オールブラックスの選手6名が、東京大学 柏キャンパスを訪問し、同大学大学院新領域創成科学研究科で進められている最先端の研究や技術に触れる体験プログラムに参加しました。

「割澤・伴研究室」では、リラクゼーションデバイスを用いた実験を実施。選手たちにデバイスを実際に体験してもらうことで、選手たちのストレス状態に変化が生じました。生き物のように膨張・収縮するクッションの動きに合わせて呼吸を整える体験では、選手の皆さんが目を閉じて深くリラックスし、心身ともに癒されている様子が印象的でした。

「篠田・牧野研究室」では、「触れた感覚」を再現する最先端の触覚技術（ハプティクス）のデモが行われました。選手たちは装置の中に手を入れ、柔らかな手触りや雨粒の感触などを疑似体験。目の前には実在しない物体のリアルな触感が手のひらに伝わると、選手の皆さんはとても驚き、新鮮な体験を楽しんでいました。



<研究室でプログラムを体験している選手の様子>

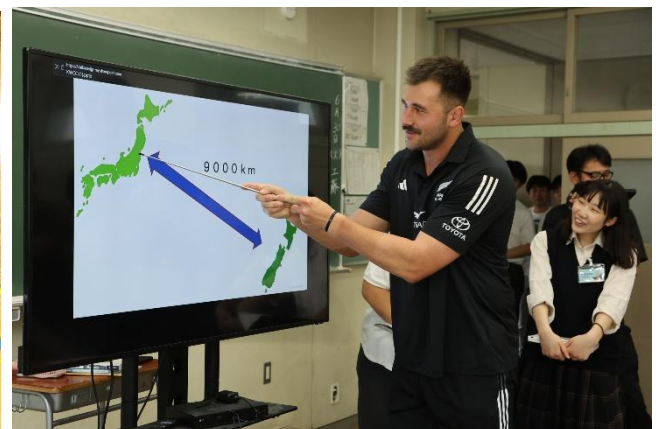
柏の葉高等学校の生徒たちと「柏の葉クイズ」や書道体験を通じた異文化交流を実施

6月29日（月）、マオリ・オールブラックスの選手6名が千葉県立柏の葉高等学校を訪問し、生徒たちとの異文化交流プログラムを実施しました。有志の生徒11名が中心となり、この日のために数ヶ月にわたり準備を重ねてきました。オープニングセレモニーでは、同校吹奏楽部の演奏に合わせ、生徒たちがニュージーランド国歌を斉唱。そのお返しとして、選手たちからも歌が披露されました。

続いて、生徒たちが柏の葉スマートシティの歴史や街づくりをテーマに企画・制作した「柏の葉クイズ」に選手たちが挑戦しました。最初の紹介パートでは、ニュージーランドと柏の葉の距離を、同国の象徴である「羊の数」に例えてユーモアたっぷりにプレゼンテーション。選手たちも終始楽しそうな様子で、柏の葉の街について学んでいました。その後のクイズパートでは、見事正解すると選手たちからも大きな拍手が沸き起こるなど、会場は大いに盛り上がりました。

さらに、日本の伝統文化に触れるプログラムとして書道体験を実施。選手たちは生徒から筆の使い方や文字の書き方を教わりながら、柏市や柏の葉スマートシティをイメージしたテーマ「緑がつなぐ軌跡」の清書に挑戦。初めて触れる筆の感触に最初は苦戦していたものの、生徒のアドバイス通り「とめ・はね・はらい」を意識すると、みるみるうちに上達。選手たちも夢中になって何枚も書き進めていました。最後に、マオリ・オールブラックスにちなんで「黒」「闘」「球」と彫られた篆刻（てんこく）がプレゼントされると、選手たちは自分で書き上げた渾身の作品にその篆刻を押すと、自身の力作を愛おしそうに眺めていました。

リオン・ポール選手は、歓迎イベントを企画してくれた生徒たちに感謝を述べつつ、「次はもっと上手に書けるようにしたい」と語り、書道体験がすっかり気に入った様子でした。



< 柏の葉高等学校の生徒たちと交流するマオリ・オールブラックスの選手 >



< 書道を体験するマオリ・オールブラックスの選手 >

<イベント概要>

ウェルカムイベント

日時：2026年6月28日（日）15:45～16:10

会場：三井ガーデンホテル柏の葉 柏の葉ゲートスクエアプラザ
（千葉県柏市若柴 178-4 柏の葉キャンパス 148 街区 2）

登壇者：柏市長 太田和美

三井不動産株式会社 イノベーション推進本部 柏の葉街づくり推進部 部長 山本 有

ゲスト：マオリ・オールブラックス選手（6名）

主催：三井不動産

東京大学柏キャンパス 訪問

日時：6月29日（月）10:30～12:30

会場：東京大学 柏キャンパス（千葉県柏市柏の葉5丁目1-5）

ゲスト：マオリ・オールブラックス選手（6名）

主催：三井不動産

千葉県立柏の葉高等学校 訪問

日時：6月29日（月）16:00～18:00

会場：千葉県立柏の葉高等学校（千葉県柏市柏の葉6-1）

ゲスト：マオリ・オールブラックス選手（6名）

主催：三井不動産

ニュージーランドラグビー協会とのパートナーシップ契約締結について

三井不動産は2024年6月、ラグビーニュージーランド代表「オールブラックス」、「マオリ・オールブラックス」、「オールブラックス XV(フィフティーン)」を擁するニュージーランドラグビー協会(以下「NZR」)とパートナーシップ契約を締結しております。リージョナルパートナーとして、2027年までNZRの日本国内での活動をサポートし、オールブラックスと共に街から未来を変える取り組みを行い、スポーツを通じた「感動体験」を創出してまいります。パートナーシップ契約締結の詳細につきましては、2024年6月10日発信の下記リリースをご参照ください。

【参考リリース】

「ニュージーランドラグビー協会とパートナーシップ契約締結 リージョナルパートナーとしてオールブラックスをサポート」<https://www.mitsufudosan.co.jp/corporate/news/2024/0610/>

三井不動産の「スポーツ・エンターテインメントを活かした街づくり」への取り組み

三井不動産は、2016年から「BE THE CHANGE」というスローガンを掲げ、スポーツの要素を盛り込んださまざまな街づくりを手掛けてまいりました。2024年4月に策定したグループ長期経営方針「& INNOVATION 2030」においては、「新たなアセットクラスへの展開」を事業戦略の一つとして掲げており、これまでに取り組んできた「スポーツ・エンターテインメントを活かした街づくり」をさらに加速

させ、リアルの体験価値を最大化することを目指しています。

The logo for "BE THE CHANGE" features the words "BE", "THE", and "CHANGE" stacked vertically in a bold, black, sans-serif font. The word "THE" is smaller than "BE" and "CHANGE". A stylized graphic element, resembling a bird in flight or a wind gust, is positioned between "BE" and "THE". This graphic consists of a red arrow pointing right, a blue horizontal bar, and a black outline of a bird's wings.

一人ひとりが変化そのものになろうという意味の「BE THE CHANGE」のロゴは、世界を変える「風」をモチーフにデザインされました。三井不動産のコーポレートカラーの二色で塗り分けられたエレメントは、「風に乗って飛び立つ鳥」をイメージしています。「人が変われば、世界は変わる」という思いから、掲げたスローガンです。

三井不動産グループのサステナビリティについて

三井不動産グループは、「共生・共存・共創により新たな価値を創出する、そのための挑戦を続ける」という「&マーク」の理念に基づき、「社会的価値の創出」と「経済的価値の創出」を車の両輪ととらえ、社会的価値を創出することが経済的価値の創出につながり、その経済的価値によって更に大きな社会的価値の創出を実現したいと考えています。

2024年4月の新グループ経営理念策定時、「GROUP MATERIALITY（重点的に取り組む課題）」として、「1. 産業競争力への貢献」、「2. 環境との共生」、「3. 健やか・活力」、「4. 安全・安心」、「5. ダイバーシティ&インクルージョン」、「6. コンプライアンス・ガバナンス」の6つを特定しました。これらのマテリアリティに本業を通じて取り組み、サステナビリティに貢献していきます。

【参考】

- ・「グループ長期経営方針」 <https://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/innovation2030/>
- ・「グループマテリアリティ」 https://www.mitsuifudosan.co.jp/esg_csr/approach/materiality/